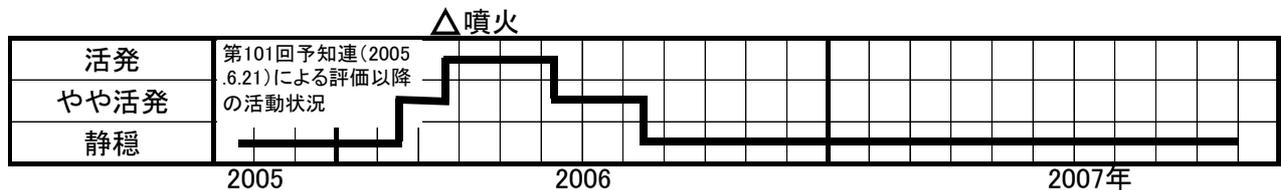


## 雌阿寒岳

### ○ 火山活動評価：静穏な状況

火山活動に特段の変化はなく、静穏な状況です。



### ○ 概況

#### ・ 噴煙及び熱活動（図 2～5）

赤沼火口、北西斜面06噴気孔列及びポンマチネシリ96-1火口の噴煙活動に特段の変化はなく静穏に経過しており、噴煙高度は火口縁上概ね100m以下で推移しました。

9月26日及び10月1日に実施した現地調査では、赤外放射温度計<sup>1)</sup>による赤沼06火口群の最高温度は約40℃で、前回(2007年6月：約50℃)と比較して若干の温度低下がみられました。その他の火口の状況には特段の変化はありませんでした。

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

#### ・ 地震活動（図 2、図 6、表 1）

火山性地震は一日あたり0～3回と少ない状態で推移し、地震活動は低調な状態で経過しました。求まった震源はポンマチネシリ火口の浅い所に分布しており、これまでと比べて特に変化はありませんでした。火山性微動は観測されませんでした。

#### ・ 地殻変動（図 7～11）

GPS 連続観測では火山活動によると考えられる変動は観測されませんでした。

山頂付近のGPS繰り返し観測では、火山活動の高まりを示すような変動は見られませんでした。

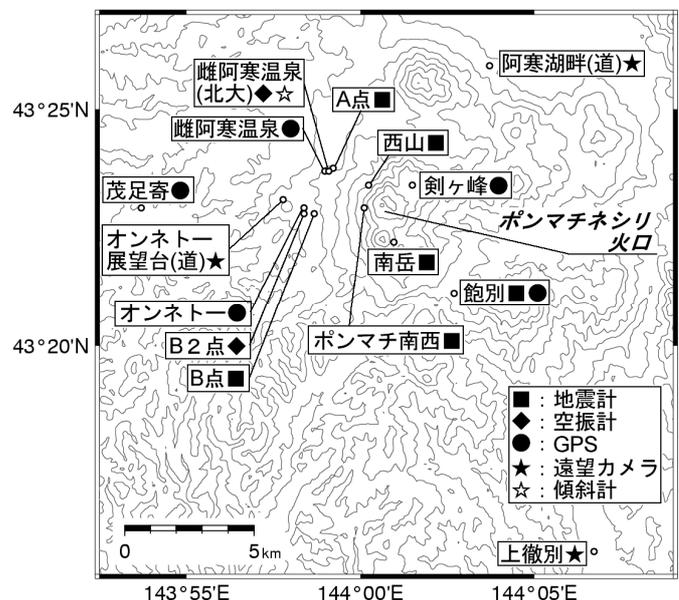


図 1 雌阿寒岳 火山観測点配置

※ 資料は気象庁のほか、北海道大学、北海道、北海道立地質研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平17総使、第503号）。

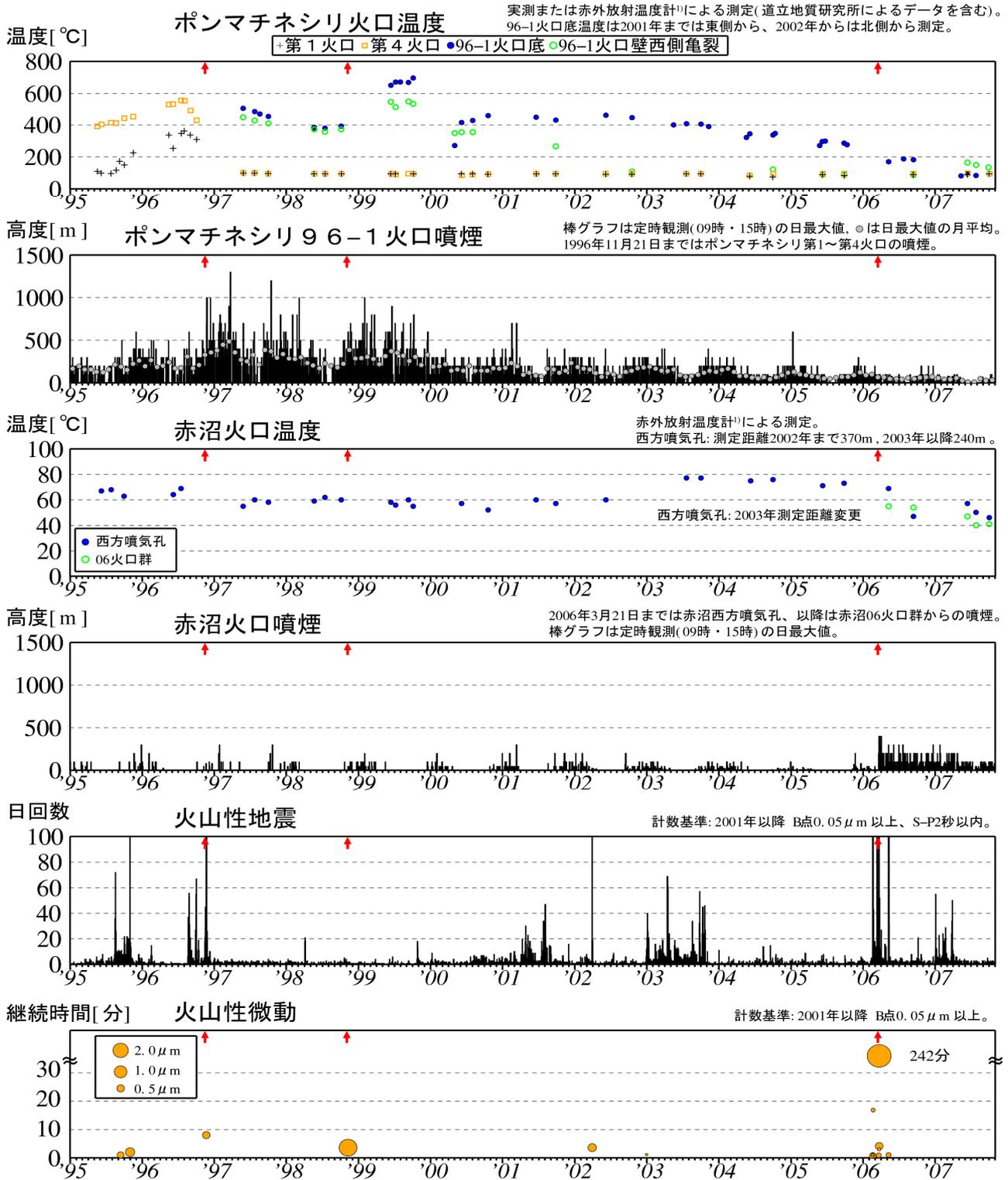


図2※ 雌阿寒岳 最近の火山活動経過図 (1995年1月~2007年10月) ↑印は噴火

- (1996年、1998年: ポンマチネシリ 96-1 火口からの噴火、2006年: 赤沼火口からの噴火)
- ・ ポンマチネシリ 96-1 火口の熱活動、噴煙活動は 2000 年以降徐々に低下し、その傾向は 2003 年以降明瞭になっています。2006 年 3 月の小噴火後もこの状況に変化は見られていません。
  - ・ 赤沼 06 火口群の噴煙活動は、2006 年 3 月の小噴火後は活発な状況でしたが、その後活動は次第に低下し、最近では静穏な状況で推移しています。
  - ・ 地震活動は、2006 年 3 月の小噴火以降、2006 年 5 月及び 2007 年 1 月~3 月に一時的に地震が増加したほかは低調な状態で推移しています。

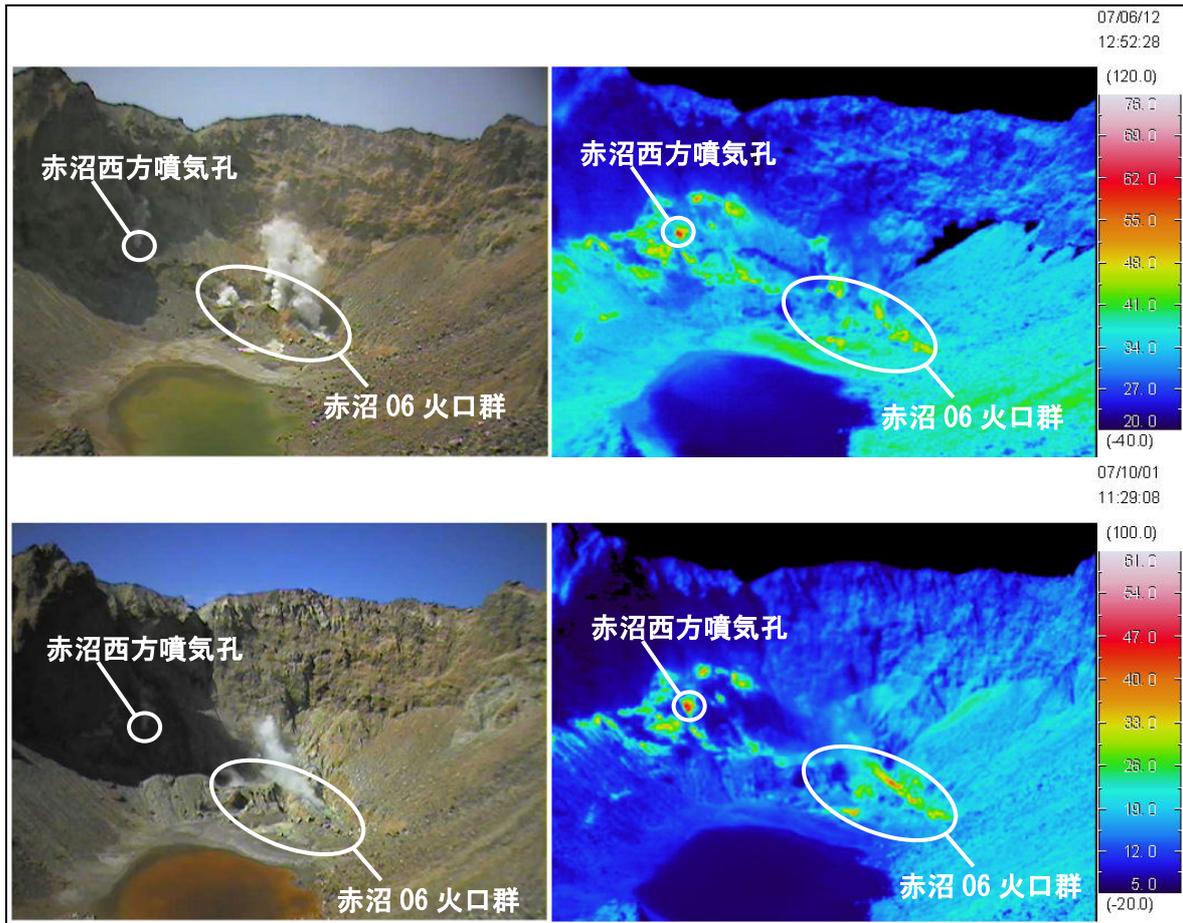


図3 雌阿寒岳 赤外熱映像装置により測定した赤沼火口内の地表面温度分布  
(上段：2007年6月12日、下段：2007年10月1日 図5の■より撮影)

- ・赤外熱映像装置<sup>1)</sup>による観測では、前回(2007年6月)と比較して地熱域の分布に特段の変化はありませんでした。赤外放射温度計<sup>1)</sup>による赤沼06火口群の最高温度は、約40°Cで2007年6月(約50°C)と比較して若干の低下が見られました。



図4 雌阿寒岳 北西斜面06噴気孔列の状況  
(2007年10月1日西側山麓より撮影)

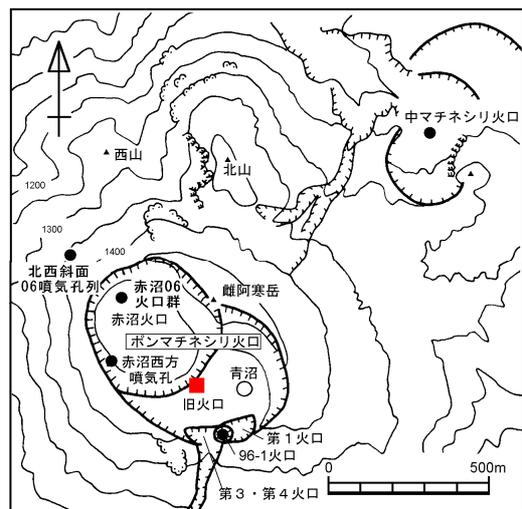


図5 雌阿寒岳 火口周辺図

- ・ポンマチネシリ96-1火口は噴煙のため内部の詳細な観察はできませんでしたが、北西斜面06噴気孔列やその他の火口の状況には特段の変化はありませんでした。

表 1 雌阿寒岳 地震・微動の月回数 (B点 : 図 6 の MEAB)

2006~2007 年	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
地震回数	16	20	195	228	213	67	32	28	32	18	32	32
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

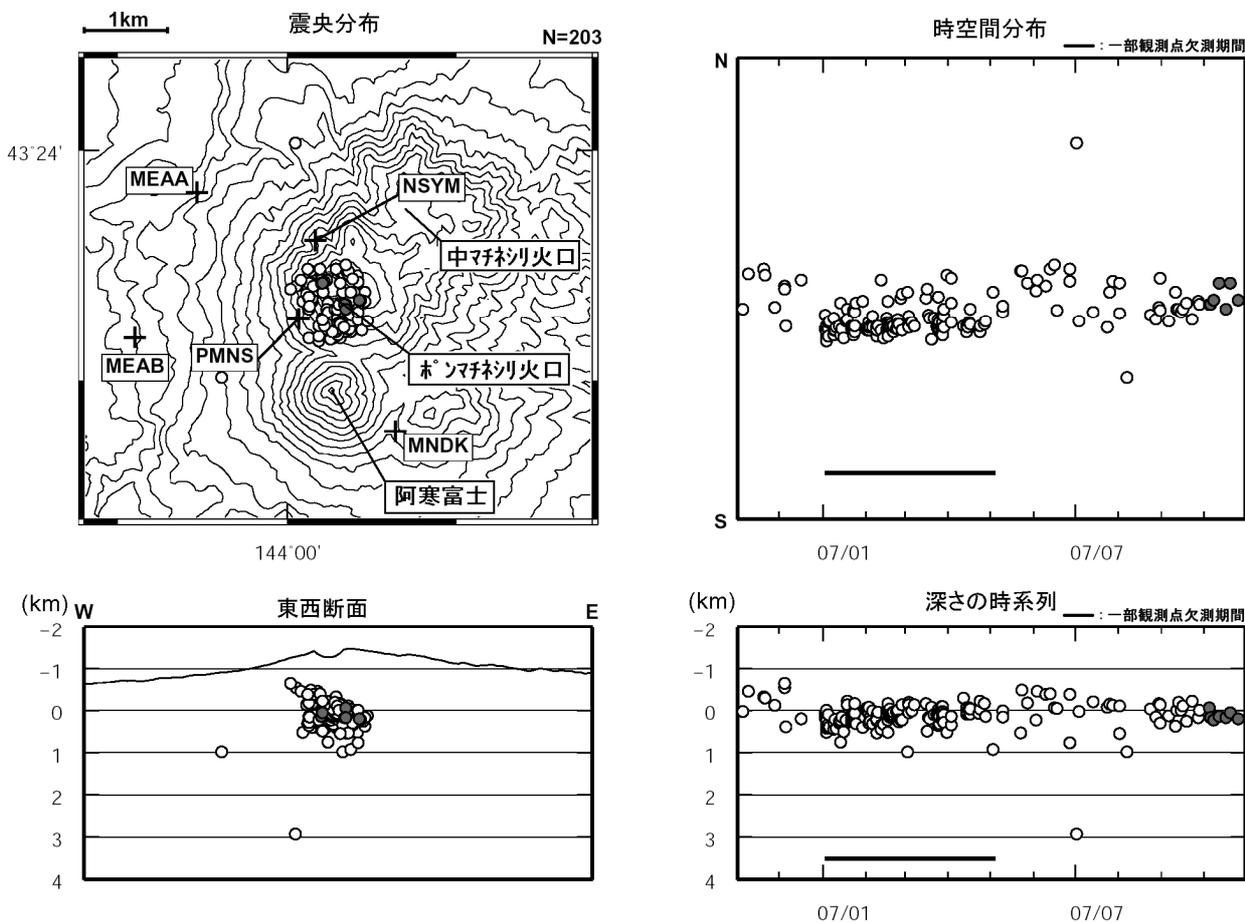


図 6 雌阿寒岳 震源分布図 (2006 年 11 月~2007 年 10 月、+は地震観測点)  
 2007 年 1 月 3 日~5 月 5 日にかけて一部観測点欠測のため震源決定数が減少し、精度も低下しています。  
 ●印は今期間 (2007 年 10 月) の震源  
 ○印は前期間までの 11 ヶ月間 (2006 年 11 月~2007 年 9 月) の震源  
 ・前期間までの震源の多くは、ポンマチネシリ火口直下の浅い所 (山頂から深さ 1~3 km 付近) に分布しています。今期間に求まった震源も概ねこの領域内に分布しています。

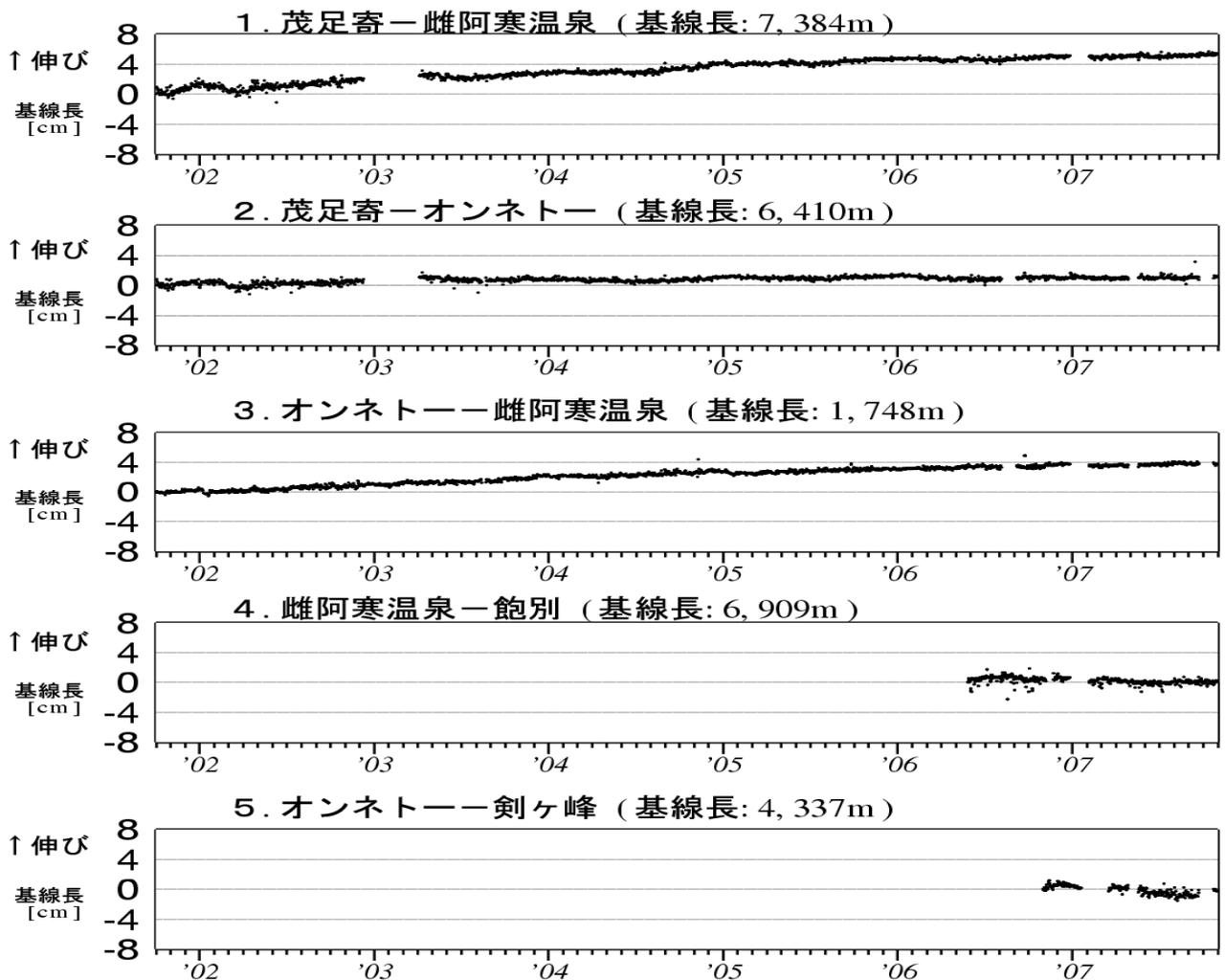


図7 雌阿寒岳 GPS 連続観測による基線長変化 (2001 年 10 月~2007 年 10 月)  
 グラフの空白部分は欠測  
 図7の1~5は、図8のGPS基線①~⑤に対応しています。

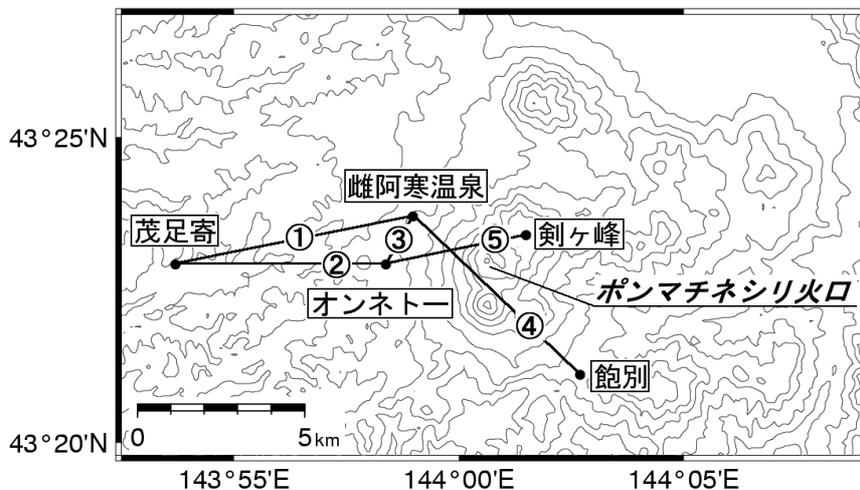


図8 雌阿寒岳 GPS 連続観測点配置図

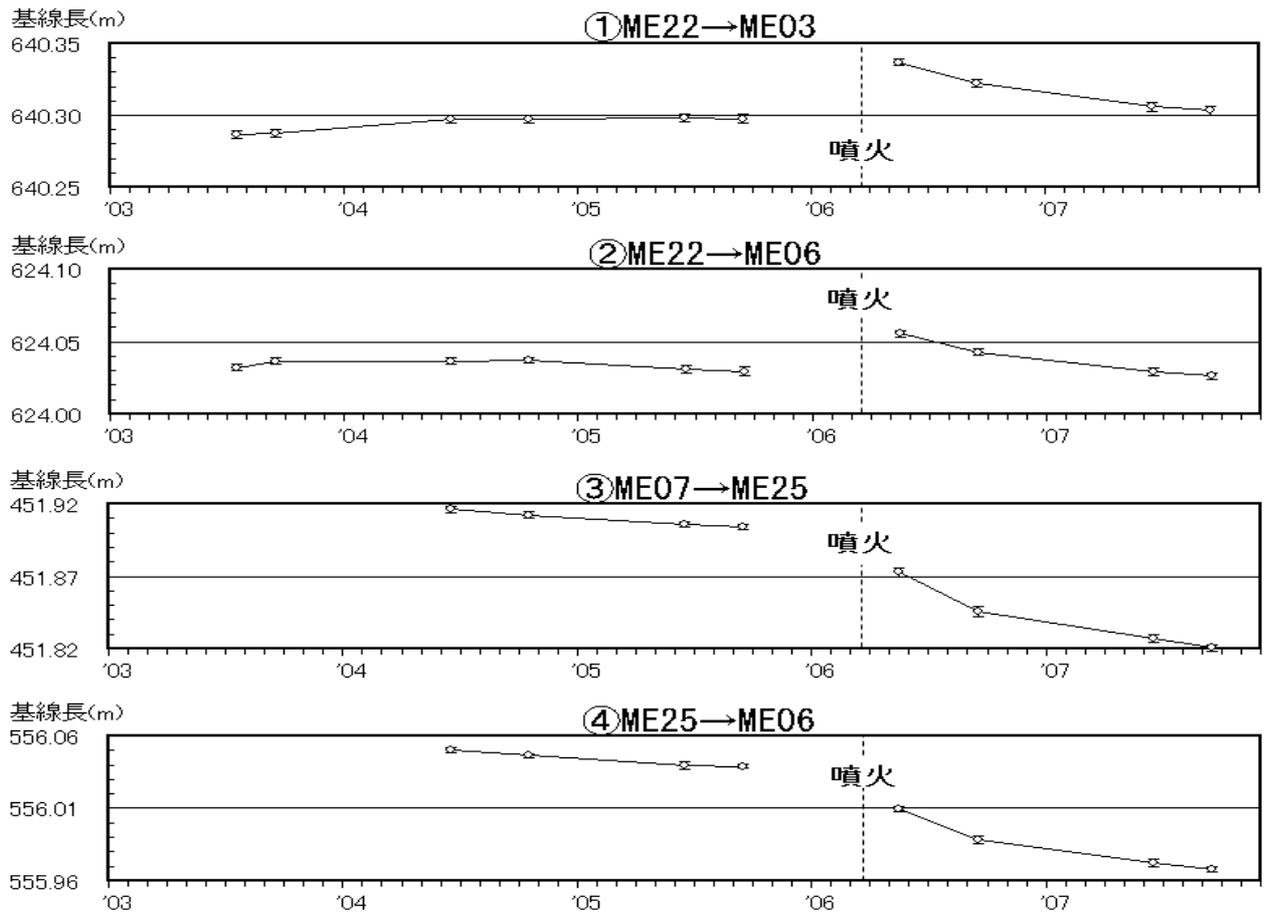


図 9 雌阿寒岳 GPS 繰り返し観測による山頂付近の基線長変化(2003 年 7 月～2007 年 10 月)  
 図 9 の①～④は、図 11 の GPS 基線①～④に対応しています。

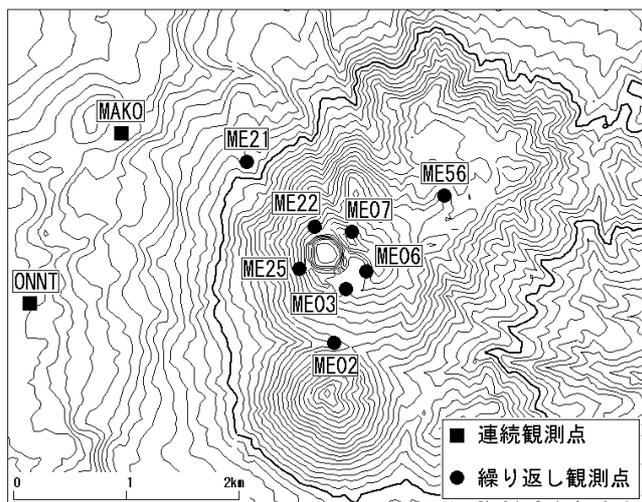


図 10 雌阿寒岳 GPS 観測点配置図

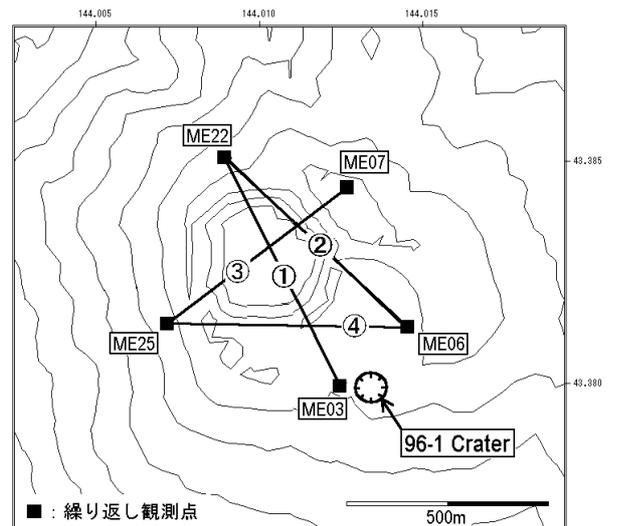


図 11 雌阿寒岳 GPS 基線

・ 2006 年 3 月の小噴火以降山頂火口の収縮を示すと考えられる基線の縮みが見られました。2007 年 10 月の観測でも同様の結果が得られましたが、変動量は噴火直後に比べて小さくなっています。